

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（修士課程連携特別研修（マスターコース））

兵庫県 今津 裕貴

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

「修士論文を本当に書き切れるだろうか」。入校前、本研修の受講が決まった私の頭を占めていたのは、そんな不安でした。

私は、一橋大学国際・公共政策大学院修士課程に在籍しつつ、自治大学校修士課程連携特別研修（マスターコース）を受講し、約1年間、自治大学校の洗心寮を生活の拠点として過ごしました。

本研修は、大学院での講義・演習の履修を中心としながら、自治大学校第1部課程の必修科目等を同校において履修する、学術と実務を同時に深められる特別なプログラムです。大学院での高度な研究環境と、自治大学校ならではの実務に根ざした研修環境、さらには全国の自治体職員との交流という、複数の学びのフィールドを往還しながら思考を深化させられる点こそが、本研修の最大の特徴です。

振り返れば、この一年は、行政実務に対する視野と思考の幅が大きく広がった時間であったと実感しています。そして冒頭の不安は、いつしか「もっと時間があれば」という前向きな思いに変わっていました。

2 大学院での学び

本課程では、修士課程修了に向け、1年間で集中的に単位取得と修士論文作成に取り組む必要があります。年度前半は講義・演習による単位取得、後半は論文執筆に注力するという、非常に充実した日々となりました。

大学院の講義は、自主性と探究心が強く求められるものであり、受講姿勢次第で得られる成果が大きく変わりました。私自身、自習や読書を重ねながら講義や研究に向き合う過程で、多くの気づきと成長実感を得ることができました。

とりわけ修士論文の作成では、実務経験者として現実的な着地点を志向しがちな思考の癖を見直し、多角的・構造的に課題を捉える重要性を学びました。限られた時間の中で成果を最大化するためのタスクマネジメントや優先順位付けは、今後の行政実務にも通じる貴重な経験であったと感じています。

3 自治大学校での学び

自治大学校では、「地方公務員制度」及び「地方税財政制度」を受講しました。講義は一方的な知識の習得にとどまらず、グループ演習や発表、リアクションペーパーの作成などを通じた、主体的な思考と議論を促す構成となっていました。

他自治体の研修生との討議を交わす中で、各自治体が置かれた行財政環境の違い、職務経験から生じる視点の多様性に触れ、地方行政の奥深さを改めて認識する機会となりました。また、異なる前提を持つ参加者の間で合意形成を図るプロセスを体験できたことは、大学院の学びとは異なる、行政実務に直結する貴重な財産となりました。

大学院で培った理論的・構造的な視点と、自治大での実務感覚に根ざした議論とが交わることで、単独の研修では得られない厚みのある学びとなりました。

4 寮生活の強み

約1年間の洗心寮生活では、特別研修生（一般研修課程の受講に加え、自治大学校の職員として研修運営等の実務にも従事する研修生）との日常的な交流が、学修に取り組む上での大きな支えとなりました。修士論文の執筆に行き詰まった夜、談話室で交わした何気ない会話に救われたことも幾度となくありました。

また、自治大学校で講義を共にした第1部課程145期研修生の寮を訪ね、杯を酌み交わし、交流を深める機会もありました。受講した科目は2科目に限られていたにもかかわらず、いつでも温かく迎えていただいたことは、今でも心に残る大切な思い出です。

学習面では、図書室の充実した蔵書や整備された自習スペースを活用することで、研究に集中できる環境を確保することができました。業務から一定の距離を置き、自身の課題意識と真剣に向き合える環境を確保できる点も、本研修の大きな魅力です。

5 これから受講を検討される方へ

本研修は、大学院・自治大学校・寮生活という3つのフィールドが重なり合う、他に類を見ない修学環境です。大学院では学術的・理論的な思考力を、自治大学校では全国の自治体職員との討議を通じて自身の実務経験を相対化し、視野を広げる機会を、そして寮生活では組織や地域を超えた人的ネットワークを、それぞれ同時に得ることができます。どこに重点を置き、何を学ぶかは受講生自身の主体性に委ねられており、自主性と探究心次第でいくらかでも深められる環境です。

受講前の私と同じように、大学院での学びや論文作成に不安を抱いている方もいるかもしれません。しかし、自治大学校という安定した生活・学習環境がその不安を和ら

げてくれることを、経験者として自信を持ってお伝えできます。行政職員として思考力をさらに深めたい方、将来の行政運営を担う視座を養いたい方に、本研修は極めて有意義な機会となるはずです。派遣する側の自治体にとっても、人材育成の観点からみても大きな意義を持つ制度であると実感しています。



学園祭（一橋祭）に来てくれた
第1部課程145期研修生の皆さんと